

校内研究 職員アンケート考察

1. 研究主題・副主題について

来年度完全実施される、特別の教科道德ということで、今日的課題であったと言える。早急に取り組まなければならない課題であり、校内研究の主題としては、適切であった。

2. 研究目標・研究仮説について

考え、議論する道德に焦点を当て、職員全体で特別の教科道德について共通理解をしたこと、児童が主体的に考えることができるような授業の工夫をしたこと、教材を工夫したことで、児童が主体的に考えることができ、目標・仮説とも適切であった。

3. 研究内容・研究方法について

・「特別の教科道德」が目指しているものを理解し、授業づくりに生かす。

外部講師の話が聞いてよかったとの意見が多かった。実際に実施する前に、講師を招聘して理論研究を進めることができた。話を聞くことで、教師としての力量の向上につながった。

さらに、子供たちが主体的に考えられるような授業の形態・授業の流れ等を具体的に深められるような内容も必要であると感じた。

・評価や教育課程編成についての理解を深め、充実した教育課程の編成を行う。

今年度は、評価については、あまり研究ができなかった。来年度に向けて、評価については、研究していく必要がある。児童の実態を把握した上で、どこに重点を置くべきか、職員間においても共通理解をし、研究を深めていくことが大切である。

・授業実践を行い、その成果と課題を洗い出し、次年度に生かす。

学年全体で、指導案を検討し、授業を行ってきた。そのため、子どもたちの実態に合った指導案を検討することができ、実践できた。学年全体で授業実践することで、課題が見えた部分もあった。見えてきた課題について、来年度に生かせるように他学年の実践を見ておく必要がある。また、作った指導案や教材について来年度も使用できるように、保管場所を決め、次年度に生かせるようにしていきたい。

・家庭や地域との連携を図り、道徳性を養うための日常的な取り組みを実践する。

授業参観で道徳を取り上げたことで、学校全体で道徳の研究をしていることが伝えられ、家庭や地域への啓発に繋げることができた。また、家庭に帰ってから親子で道徳の授業について話す機会にもなった。道徳の授業の中では、よく考えることができるが、日常生活において、道徳的な判断力により行動できているかは疑問である。問題場面に出会ったときや判断しなければならないときに、自分で考え判断し、行動できるようにしていくことが課題である。

・教材開発を行う。

学年で共通の内容を行うことで、指導案や教材について考えることができ、授業参観においても有効に使用することができた。各学年、子供たちの実態に応じた教材開発ができた。学年でポートフォリオを行ったところもあり、児童の道徳への意識が高まったようにも感じる。

4. 研究計画について

無理のない計画で、余裕をもって準備することができた、という意見が多かった。教科書の決定が遅かったため、理論研究ができなかったところもある。もう少し6年間のつながりを考えた研究が必要であると感じる。

5. 研究組織について

今年度は、ブロックを作らずに、各学年で研究を進めた。学年全体で授業づくりができ、やりやすかったとの意見が殆どであった。来年度以降、どのような研究内容にしていくのか、どのように研究授業をするかによるが、授業づくりがしやすいような組織作りが必要である。

6. 研究の成果

職員全体で「特別の教科道徳」の共通理解をし、全員で授業を行うことで、来年度の教科化への足掛かりにすることができた、との意見が多かった。教科化になった背景やなぜ「特別の教科」と言うのか、これまでの道徳との違いを認識することができた。道徳の教科化の趣旨を理解した上で授業づくりを行うことができた。「考え、議論する」道徳の理解を全体で確認することができた。職員全員で授業を行うことで、教科化へ向けた授業についてのイメージができ、教師としてのスキルアップにつながった。完全実施に向けて、授業参観で道徳を行い、家庭や地域へ発信できたことも大きい。教科化へ向けた準備ができたことは成果と言える。

7. 研究の課題

今年度は、授業づくりに焦点を当てて研究を進めてきた。しかし、来年度は道徳においても評価をしていかなければならない。学校全体で道徳的価値の理解について、それぞれの発達段階における理解の系統を確認し、その上で評価をしていかなければならないと考える。そのための研究が必要であろう。児童がより多面的で多角的な見方へと発展しているのか、教師が道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているのかの見取りをどうするのか、そのための方法などの研究も必要であると感じる。

また、授業づくりについても、さらによりよい授業をつくり上げるためにも、相互の授業参観も取り入れていく必要もある。

8. 来年度の研究の方向性について

職員アンケートより、取り組みたいことを大まかにまとめることができる。

- ・今年度の研究を継続する。
- ・新学習指導要領の実施に向けて、外国語活動・プログラミング教育・主体的・対話的で深い学び

教科化にあたり継続して道徳の研究をしていくことが望ましいように思われる。ただ、2年後の新学習指導要領の実施に向けて、外国語活動・プログラミング教育・主体的・対話的で深い学びについても研究していきたいとの意向もある。

来年度の方向性として

- ・今年度研究した道徳についての研究を継続する。
- ・外国語活動やプログラミング教育などの研修を受け、その還流報告などを行っていく。